

第46回 頭頸部・胸部画像研究会

- 日 時：2017年5月13日（土） 14:00～18:05（予定）
- 会 場：ステーションコンファレンス東京 東京駅サピアタワー5F
電話 03-6888-8080 詳細地図は最後のページにあります
- 当番世話人：頭頸部 浮洲龍太郎（北里大学）
胸部 荒川浩明（獨協医科大学）

<頭頸部>

代表世話人：山田恵子（がん研有明病院）

世話人：塚本 浩（藤沢市民病院）

辰野 聡（八重洲クリニック）

栗原宜子（町田市民病院）

浮洲龍太郎（北里大学）

尾尻博也（東京慈恵会医科大学）

酒井 修（ボストン大学）

田中宏子（がん研有明病院）

豊田圭子（帝京大学）

藤田晃史（自治医科大学）

森 壘（東京大学）

本折 健（津田沼中央総合病院）

久野博文（国立がん研究センター東病院）

木村幸紀（昭和大学歯科病院）

池田耕士（関西医科大学総合医療センター）

顧問：多田信平

<胸部>

代表世話人：南 学（筑波大学）

世話人：佐藤雅史（東邦大学大橋病院）

酒井文和（埼玉医大国際医療センター）

楠本昌彦（国立がん研究センター東病院）

荒川浩明（獨協医科大学）

岩澤多恵（神奈川県立循環器呼吸器病センター）

氏田万寿夫（立川総合病院）

横山健一（杏林大学）

叶内 哲（埼玉県立循環器・呼吸器病センター）

栗原泰之（聖路加国際病院）

坂井修二（東京女子医科大学）

杉浦弘明（慶應義塾大学）

藤澤英文（昭和大学横浜市北部病院）

松岡 伸（聖マリアンナ医科大学）

顧問：土井 修

※当日、会費 1,000 円を徴収いたします。

※研究会後に情報交換会を予定しております。

※情報交換会にて各部門の優秀者を発表、並びに表彰致します。

演者へのお願い

発表データは、USBメモリースティック・CDなどで当日受け付けます。
ご発表の30分前までにはPC受付へお越しください。なお、動画データを含む場合やMac作成データの場合は、不具合を避けるため、できるだけ自身のパソコンをご持参願います。一般演題は発表6分・質疑2分、症例報告（1例報告）は発表5分・質疑1分でお願い申し上げます。

共催 頭頸部・胸部画像研究会
富士製薬工業株式会社

Time Schedule

共催メーカー 情報提供 13:50～14:00

開会の辞		14:00 ～ 14:03
胸部	一般演題	14:03 ～ 14:55
	特別講演 1	14:55 ～ 15:40
Coffee Break		15:40 ～ 16:00
頭頸部	特別講演 2	16:00 ～ 16:45
	一般演題	16:45 ～ 18:00
閉会の辞		18:00 ～ 18:03
情報交換会		18:10 ～

【特別講演 1】

大阪大学大阪大学大学院 医学系研究科 放射線統合医学講座 放射線医学
本多 修 先生

「前縦隔腫瘍のチェック・ポイント」

【特別講演 2】

国立がん研究センター東病院 放射線診断科
久野 博文 先生

「頭頸部癌の画像診断における最近の動向：米国での経験を中心に」

— PROGRAM —

14:00 開会の辞 荒川浩明（獨協医科大学）

14:03 一般演題（胸部①）

司会：藤澤英文（昭和大学横浜市北部病院）

演題 1 孤立性肺毛細血管腫（solitary capillary hemangioma of the lung）の一例

聖マリアンナ医科大学 放射線医学講座¹⁾、聖マリアンナ医科大学 病理学教室²⁾、
琉球大学大学院医学研究科 放射線診断治療学講座³⁾、
松下彰一郎¹⁾、小野貴史^{1)、2)}、松岡 伸¹⁾、山城恒雄^{1)、3)}、小徳暁生¹⁾、藤川あつ子¹⁾、
八木橋国博¹⁾、高木正之²⁾、中島康雄¹⁾

【要旨】症例は 26 歳女性。健診の胸部単純写真で異常を指摘され、胸部 CT でも左肺下葉に結節を認めた。増大傾向を認めたため左肺下葉部分切除術が施行され、組織から capillary hemangioma と診断された。

演題 2 単純ヘルペス肺炎の 1 例

獨協医科大学 放射線科¹⁾、獨協医科大学 呼吸器外科²⁾、獨協医科大学 病理診断科³⁾
三須陽介¹⁾、荒川浩明¹⁾、楫 靖¹⁾、小林 哲²⁾、千田雅之²⁾、中里宜正³⁾

【要旨】両側の生体肺移植後に発生した単純ヘルペス肺炎の 1 例を経験したので報告する。
重症の過敏性肺臓炎に対し両側の生体肺移植を施行した。術後約 2 週間で呼吸状態が悪化し、胸部 CT にて多発結節とすりガラス像が右上葉や両側下葉などに認められた。BAL 中に単純ヘルペスウイルスに特徴的な所見が繰り返し認められ、単純ヘルペス肺炎と診断した。

演題 3 肺のコロイド腺癌の一切除例

国立がん研究センター東病院 放射線診断科¹⁾、国立がん研究センター東病院 病理診断科²⁾、
国立がん研究センター東病院 呼吸器外科³⁾
大島拓美¹⁾、関谷浩太郎¹⁾、稲村健介¹⁾、富田隼人¹⁾、久野博文¹⁾、小林達伺¹⁾、岩田良子¹⁾、
中神佳宏¹⁾、島田 薫¹⁾、楠本昌彦¹⁾、石井源一郎²⁾、坪井正博³⁾

【要旨】60 歳代の男性。健診で画像異常を指摘された。胸部 CT では左肺上葉に石灰化を伴う不整形腫瘤を認めた。左肺上葉切除術が施行され、肺コロイド腺癌の診断となった。稀な組織型であり、文献的考察を交えて報告する。

演題 4 若年女性に発生した胎児型肺腺癌の 1 例

昭和大学横浜市北部病院 放射線科¹⁾、昭和大学横浜市北部病院 吸器センター²⁾、
昭和大学横浜市北部病院 病理科³⁾
山田 愛弓¹⁾、渡邊孝太¹⁾、松成一矢¹⁾、児山久美子¹⁾、橋詰典弘¹⁾、藤澤英文¹⁾、
大橋慎一²⁾、北見明彦²⁾、国村利明³⁾

【要旨】症例は 30 歳台女性。検診で胸部異常影を指摘され当院を紹介受診。胸部単純 CT
で右上葉に単発の境界明瞭な分葉状円形結節を認めた。手術施行し、胎児型肺腺癌
と診断された。若年女性に発生した稀な胎児型肺腺癌を経験したので報告する。

14:27 一般演題（胸部②）

司会：松岡 伸（聖マリアンナ医科大学）

演題 5 Streptococcus milleri group 感染による膿胸の 4 症例

聖路加国際病院 放射線科¹⁾
福田俊憲¹⁾、栗原泰之¹⁾、須賀加奈¹⁾、宮沢 亮¹⁾、松迫正樹¹⁾

【要旨】Streptococcus milleri group(以下 SMG)による膿胸を認めた 4 例を経験した。いず
れも糖尿病を有し、来院時の胸部 CT で胸膜肥厚を伴う被包化胸水を認めた。全
例に誤嚥性肺炎あるいは誤嚥のリスクを伴う基礎疾患を有していた。糖尿病や誤
嚥のリスクを有する患者が初回 CT 検査で既に膿胸を認めた際は SMG による感
染を考える必要がある。

演題 6 Multiple menigothelial-like nodule (MPMN)の 1 例

神奈川県立循環器呼吸器病センター放射線科¹⁾、神奈川県立循環器呼吸器病センター呼吸器
内科²⁾、横浜市大医学部 病態病理学³⁾、日赤医療センター 病理部⁴⁾
嵩原章太¹⁾、岩澤多恵¹⁾、小倉高志²⁾、梅田茂明³⁾、奥寺康司³⁾、武村民子⁴⁾

【要旨】症例は 70 歳代女性。低ナトリウム血症精査中に、肺内多発すりガラス状結節を
指摘された。multifocal micronodular pneumocyte hyperplasia を疑われ、外科的肺生
検を施行し、MPMN と診断された。画像的には両者の鑑別は困難と考えられる。

演題 7 急速に進行した肺クリプトコッカス症の一例

慶應義塾大学放射線科（診断）¹⁾
水野真利子¹⁾、杉浦弘明¹⁾、南 康大¹⁾、山田祥岳¹⁾、陣崎雅弘¹⁾

【要旨】症例は 60 歳代、女性。RA に対して、ステロイド、MTX、生物学的製剤等にて治
療中に右上肺野に結節影、浸潤影出現。3 日間で右上葉全体に病変が広がった。
気管支鏡にてクリプトコッカス症と診断された。肺炎様所見を呈するとクリプト
コッカス症について文献的考察を加えて報告する。

演題 8 多発性斑状すりガラス陰影を呈した MALT lymphoma の一例

倉敷中央病院 放射線診断科¹⁾、倉敷中央病院病 理診断科²⁾、倉敷中央病院 呼吸器内科³⁾
阿部哲也¹⁾、小山 貴¹⁾、中下 悟¹⁾、能登原憲司²⁾、田中友樹³⁾、石田 直³⁾

【要旨】症例は生来健康な 30 歳代 女性。健診にて胸部異常影を指摘され、CT を撮像したところ、両側肺野に最大径は 1.5cm までの斑状のすりガラス影が多数認められた。多くの病変では内部に既存の間質の肥厚と微小な嚢胞性変化を伴っていた。FDG-PET では大きめの病変に一致して淡い集積像を認めた。CT ガイド下生検が施行され、病理では MALT lymphoma と診断された。

14:55 特別講演1（胸部）

「前縦隔腫瘤のチェック・ポイント」

司会：荒川浩明（獨協医科大学）

講演：本多 修

（大阪大学大阪大学大学院 医学系研究科 放射線統合医学講座 放射線医学）

【抄録】

縦隔腫瘍の取り扱い規約第1版が2009年1月に出版されて8年が経過し、日常臨床で広く使われている。この取り扱い規約では縦隔は縦隔上部・前縦隔・中縦隔・高縦隔の4つに分けられているが、縦隔腫瘤には好発部位があるのでどこに発生しているかで鑑別疾患をある程度絞ることが可能である。前縦隔腫瘤のなかで奇形腫は石灰化や脂肪などの比較的特徴的なCT・MRI画像を呈するので診断に苦慮することは少ないが、胸腺腫や悪性リンパ腫のような前縦隔腫瘍の画像所見は類似してことがままあるため鑑別に苦慮することが多い。画像診断だけで全ての前縦隔腫瘤の鑑別ができるわけではないが、CTやMRI、PET-CTなどのモダリティを用いることにより鑑別が可能な疾患もあり、画像診断に期待される部分は大きいと考えられる。本講演では前縦隔腫瘍としてポピュラーな胸腺腫・悪性リンパ腫とその鑑別として頻度の高い胸腺嚢胞・胸腺過形成を中心に概説する予定であり、全縦隔腫瘤に対する理解を深めていただければ幸いである。

MEMO

15:40~16:00 Coffee break（20分）

16:00 特別講演2（頭頸部）

「頭頸部癌の画像診断における最近の動向：米国での経験を中心に」

司会：浮洲龍太郎（北里大学）

講演：久野博文（国立がん研究センター東病院 放射線診断科）

【抄録】

頭頸部癌に対する集学的治療の開発はめざましく、毎年のように新たな知見や治療法が update されている。ウイルス関連の頭頸部癌の治療成績が整理され、最新のAJCC第8版ではヒトパピローマウイルス（HPV）関連中咽頭癌の病期分類が別に設けられた。また、新たな化学療法として、EGFR阻害薬が臨床で広く使用され、さらにPD-1/PD-L1阻害に関しても開発が進んでいる。基礎的な研究では、遺伝子解析の報告が増え、いずれ頭頸部癌に対しても遺伝子検査の結果で治療を選択する時代を予感させる。画像診断においても、Radiogenomics/Radiomics をキーワードとする研究が活気を帯びており、放射線医学の多量な情報を系統的に扱い、臨床情報との関連性を解析することで、頭頸部癌においても予後・治療効果予測等での活用が期待されている。その中の手法の一つとしてテキスト解析が注目されており、この数年で一気に学会発表数・論文数が増加している。

本研究会では、これらの頭頸部癌における臨床的背景と、画像診断における最近の動向について、米国での経験を中心に共有させていただく。主に、1) 頭頸部癌におけるウイルス感染（HPV・EBV・HIV）に対する最近の知見、2) 頭頸部癌に対するテキスト解析の可能性と課題について、ボストン大学にて行った研究成果を基に報告する。また、頭頸部癌患者では頻回に造影MRIを撮像することもあり、ガドリニウム造影剤の脳内蓄積問題についても触れる。

MEMO

演題 1 側頸部皮膚に生じた顆粒細胞腫の 1 例

岐阜大学医学部 放射線科¹⁾
安藤知広¹⁾、加藤博基¹⁾、松尾政之¹⁾

【要旨】症例は 66 歳男性。右側頸部の皮膚腫瘍が切除され、病理学的に顆粒細胞腫と診断された。顆粒細胞腫は schwann 細胞由来の稀な良性腫瘍であり、約 1/3 が頭頸部領域に発生し、術前診断に MRI が有用とされる。

演題 2 異所性過誤腫性胸腺腫の 1 例

愛媛大学医学部附属病院 放射線科¹⁾
船木 翔¹⁾、平塚義康¹⁾、望月輝一¹⁾

【要旨】症例は 30 歳代男性。左胸部痛の精査目的で当院紹介受診となった。左頸部に柔らかい病変を触知し、CT・MRI にて左胸鎖乳突筋背側に境界明瞭な腫瘍を認めた。摘出術が施行され、異所性過誤腫性胸腺腫と診断された。画像を供覧し文献的考察を含めて報告する。

演題 3 当院 MRONJ（薬剤関連顎骨壊死：BRONJ および DRONJ）症例における CT 所見の検討

東京歯科大学市川総合病院 放射線科¹⁾、東京歯科大学 歯科放射線学講座²⁾、
東京慈恵会医科大学 放射線医学講座³⁾、東京慈恵会医科大学 葛飾医療センター 放射線科⁴⁾
馬場 亮¹⁾、後藤多津子²⁾、山内英臣³⁾、荻野展広⁴⁾、小橋由紋子¹⁾、山添真治¹⁾、
宗友洋平¹⁾、最上拓児¹⁾、尾尻博也³⁾

【要旨】当院にて約 5 年半の期間で MRONJ と臨床的に診断された 74 例の CT を対象とし、BRONJ と DRONJ、BRONJ 投与法（経口 vs 静注）、臨床病期と CT 所見につき、比較検討した。上顎 MRONJ の全例で患側の片側性副鼻腔炎所見を認めた。DRONJ は BRONJ よりも骨膜反応・大きな腐骨、BRONJ 経口投与群は頬舌側骨皮質欠損を示す傾向にあった。

演題 4 画像診断に苦慮した下顎骨中心性悪性腫瘍の 2 例

昭和大歯学部歯科放射線科¹⁾、昭和大歯学部口腔病理²⁾
木村幸紀¹⁾、花澤智美¹⁾、入江太郎²⁾、美島健二²⁾

【要旨】症例 1：61 歳・男性。1 か月前からの下顎智歯部の有痛性腫脹と下唇のしびれを主訴に来院。症例 2：75 歳・男性。下顎大臼歯の抜歯後に生じてきた歯肉腫脹を主訴に来院。2 例とも造影 CT では、辺縁不整な骨破壊と造影効果の弱い病変を認めた。また、2 例とも長径約 10mm の顎下リンパ節腫大を認めた。前者は SCC、後者は Burkitt リンパ腫であった。

演題 5 外傷を契機に発見され、広範な骨破壊と頭蓋内進展を伴った涙腺腺様嚢胞癌の 1 例

北里大学医学部 放射線科学(画像診断学)¹⁾、
狩野洋輔¹⁾、浮洲龍太郎¹⁾、山根拓郎¹⁾、大塚亜沙未¹⁾、島田理恵¹⁾、井上優介¹⁾

【要旨】60 歳代・女性。顔面打撲後に左眼球突出を自覚し受診した。CT・MRI では左眼窩外側壁および中頭蓋窩の骨破壊を伴い、左眼窩内から頭蓋内に進展する充実性腫瘍がみられ、手術にて左涙腺由来の腺様嚢胞癌と診断された。

演題 6 CT/MRI で嚢胞性腫瘤と思われた左眼窩内異型脂肪腫状腫瘍/高分化型脂肪肉腫の 1 例

千葉大学大学院医学研究院画像診断・放射線腫瘍学¹⁾、
千葉大学大学院医学研究院脳神経外科学²⁾、千葉大学大学院医学研究院診断病理学³⁾、
西山晃¹⁾、堀越琢郎¹⁾、向井宏樹¹⁾、堀口健太郎²⁾、原田直³⁾、中谷行雄³⁾、岩立康男²⁾、
宇野隆¹⁾

【要旨】40 歳代女性、複視・眼球突出を主訴に発見された左眼窩内腫瘤。CT/MRI で上直筋頭側に接する嚢胞性腫瘤と思われ、手術が行われた。異型脂肪腫状腫瘍/高分化型脂肪肉腫の病理診断であった。後方視的に画像を検討しても異常脂肪や造影される内部構造を指摘できなかった。眼窩内の脂肪肉腫はまれな病変であり、文献的考察を交え報告する。

17:23 一般演題（頭頸部②）

司会：久野博文（国立がん研究センター東病院）

演題 7 HPV 陽性中咽頭癌に対する術後再発症例の CT 所見

東京慈恵会医科大学 放射線医学講座¹⁾、東京歯科大学市川総合病院²⁾、
東京慈恵会医科大学 葛飾医療センター³⁾、東京慈恵会大学 耳鼻咽喉科学教室⁴⁾
山内英臣¹⁾、馬場亮²⁾、荻野展広³⁾、濱孝憲⁴⁾、尾尻博也¹⁾

【要旨】HPV 陽性中咽頭癌に手術が施行された 16 例の術前 CT において、原発巣のサイズ・進展様式、頸部リンパ節転移のサイズ・内部性状等につき、術後再発 8 例と非再発 8 例を後ろ向きに比較検討した。文献的考察を加え報告する。

演題 8 中咽頭に発生した孤発性神経線維腫の 1 例

昭和大学横浜市北部病院 放射線科¹⁾、昭和大学横浜市北部病院 耳鼻咽喉科²⁾、
昭和大学横浜市北部病院 病理科³⁾
渡邊孝太¹⁾、児山久美子¹⁾、松成一矢¹⁾、橋詰典弘¹⁾、山田愛弓¹⁾、藤澤英文¹⁾、
山田良宣²⁾、門倉義幸²⁾、国村利明³⁾

【要旨】症例は 30 歳台男性。発熱、扁桃腫大を主訴に近医を受診。当院を紹介受診となった。MRI で中咽頭に T2 強調像で高信号および低信号が混在し、T1 強調像で低信号の腫瘤を認めた。手術施行され神経線維腫の診断となった。比較的稀な中咽頭発生の孤発性神経線維腫を 1 例経験したので、画像所見を中心に若干の文献的考察とともに報告する。

演題 9 錐体鼓室裂近傍の鼓室壁肥厚の検討

筑波大学附属病院放射線診断・IVR科¹⁾、八重洲 AIC クリニック放射線科²⁾、
筑波大学附属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科³⁾
檜山貴志¹⁾、酒井正史¹⁾、石黒聡尚¹⁾、辰野 聡²⁾、和田哲郎³⁾、南 学¹⁾

【要旨】 鼓室前壁の錐体鼓室裂近傍に正常でまれに肥厚が見られることがあり、病変と誤認する可能性がある。過去に撮影された側頭骨 HRCT100 症例（200 側頭骨）の内、健常側 71 側頭骨を対象とし、肥厚の有無を検討した。肥厚があったのは 19/71 例（26.7%）であり、肥厚があった群の平均年齢は 44.7 歳、男女比 3:1、なしの群の平均年齢は 38.5 歳、男女比ほぼ 1:1 であった。

演題 10 副鼻腔原発 NUT midline carcinoma の 3 例

がん研有明病院 画像診断部¹⁾、がん研有明病院 頭頸科²⁾、がん研有明病院 病理部³⁾
和田 武¹⁾、田中宏子¹⁾、三谷浩樹²⁾、佐藤由紀子³⁾、松枝 清¹⁾

【要旨】 NUT midline carcinoma (NMC) は稀な未分化/低分化扁平上皮癌の一亜型で、NUT-BRD4 融合遺伝子を原因とする予後不良な疾患である。縦隔や胸腺に次いで頭頸部領域発生の頻度が高いが、画像所見の報告は乏しい。今回、副鼻腔原発の NMC の 3 例を経験したため、文献学的考察を加えて報告する。

演題 11 隆鼻術にてフィラー注入後に生じた逆行性眼動脈塞栓の 1 例

近畿大学医学部放射線診断科¹⁾
松木 充¹⁾、鈴木絢子¹⁾、土居秀平¹⁾、浜川岳文¹⁾、沼本勲男¹⁾、小田晃義¹⁾、村上卓道¹⁾

【要旨】 20 代、女性。隆鼻術のためカルシウムハイドロキシアパタイト剤を注入後、突然の右視力低下、気分不良、嘔吐が出現。脂肪抑制 FLAIR 冠状断像にて、右視神経に異常高信号を認め、右内側直筋、下直筋の肥厚と異常高信号を認める。DWI にて右視神経に高信号を認める。以上より Ca-HA 剤の外側鼻動脈誤注入による逆行性眼動脈塞栓と診断した。

18:00 閉会の辞 浮洲龍太郎（北里大学）

18:10 情報交換会



Optiray

非イオン性造影剤(イオパレンール)注射液 薬価基準収載
処方せん医薬品*

オプチレイ[®]

Optiray[®] 注)注意-医師等の処方せんにより使用すること

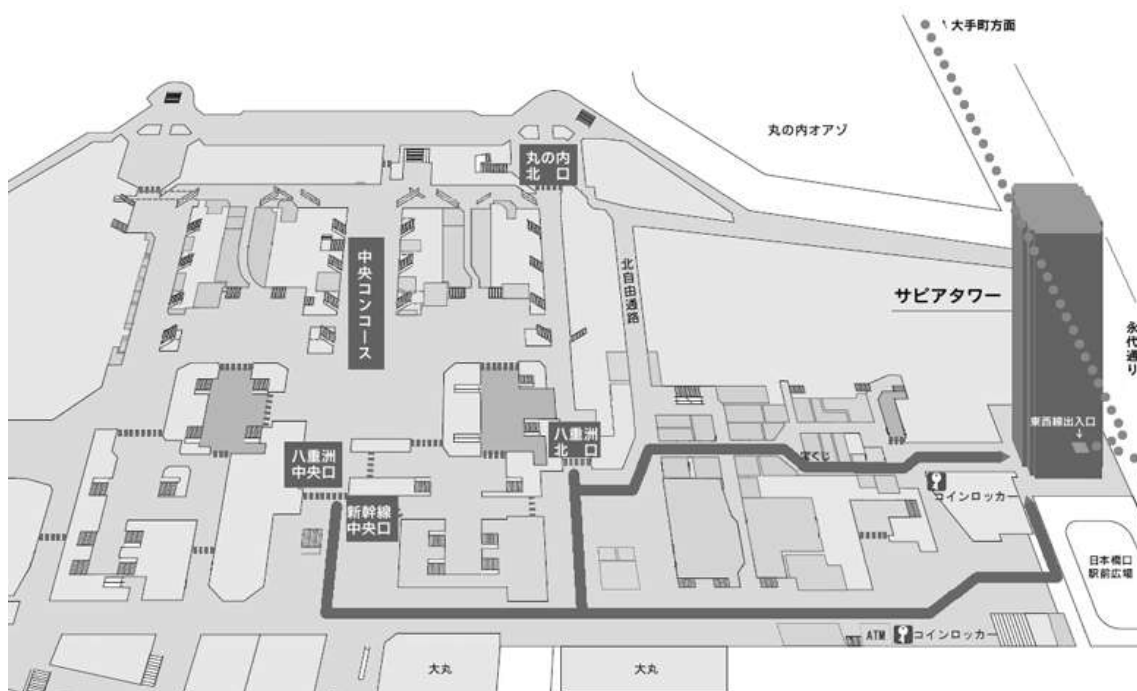
240注100mL
320注20/50/75/100mL
350注20/50/100mL
240注シリンジ100mL
320注シリンジ40/50/75/100mL
350注シリンジ50/100mL

「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」等の詳細につきましては、製品添付文書をご参照ください。

製造販売元
富士製薬工業株式会社
〒939-3515 富山県富山市水橋社ヶ堂1515番地
<http://www.fujipharma.jp>

2015年6月作成

ステーションコンファレンス東京 アクセスマップ



JR 東京駅から…… 八重洲北口から徒歩 5 分です。

地下鉄大手町駅から…… 東西線大手町駅 B7 出口直結です。

〒 100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目 7 番 12 号サピアタワー